

読

Yomiuri
Nippon
Symphony
Orchestra

響

消えない記憶。消せない叫び。
イエンスンが呼び起こす、歴史の慟哭。

“Leningrad Symphony”

Conductor: EIVIND GULLBERG JENSEN

Piano: ANDREAS STAIER Concertmaster: KOTA NAGAHARA

MOZART: Piano Concerto No. 17 in G major, K. 453

SHOSTAKOVICH: Symphony No. 7 in C major, op. 60 “Leningrad”

The 548th Subscription Concert / Wed. 13 May 19:00 / Suntory Hall

指揮:エイヴィン・グルベルグ・イエンスン

ピアノ:アンドレアス・シュタイアー

コンサートマスター:長原幸太

モーツァルト:ピアノ協奏曲 第17番 ト長調 K.453

ショスタコーヴィチ:交響曲 第7番 ハ長調 作品60

「レニングラード」

読売日本交響楽団 第548回 定期演奏会

2015.5.13水曜19時 サントリーホール S ¥7,200・A ¥6,100・B ¥5,100・C ¥3,600

読響チケットセンター 0570-00-4390 [10時-18時 年中無休] <http://yomikyo.or.jp/>

プレイガイド:チケットぴあ、サントリーホールチケットセンター 主催:読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団 協力:アブラック(アメリカンファミリー生命保険会社)

EIVIND GULLBERG JENSEN



指揮 エイヴァン・グルベルグ・イェンセン

2010年にベルリン・フィルにデビューするなど欧州で注目を集めるノルウェーの新鋭。2009年から5年間にわたってハノーファー北ドイツ放送フィルの首席指揮者を務め、幅広いレパートリーで高い評価を得た。これまでに、ミュンヘン・フィル、パリ管、バーミンガム市響、バンベルク響、チェコ・フィルといった世界の名だたる楽団と共演。オペラ指揮者としても活躍しており、バイエルン国立歌劇場、ローマ歌劇場、チューリヒ歌劇場など著名なオペラ・ハウスに招かれている。2017年にはウィーン国立歌劇場へのデビューが決まっている。同世代の中でも抜きん出た躍進ぶりに、早くも“未来の巨匠”として大きな期待が寄せられている。読響とは、本公演が初共演となる。

©Mat Hennek

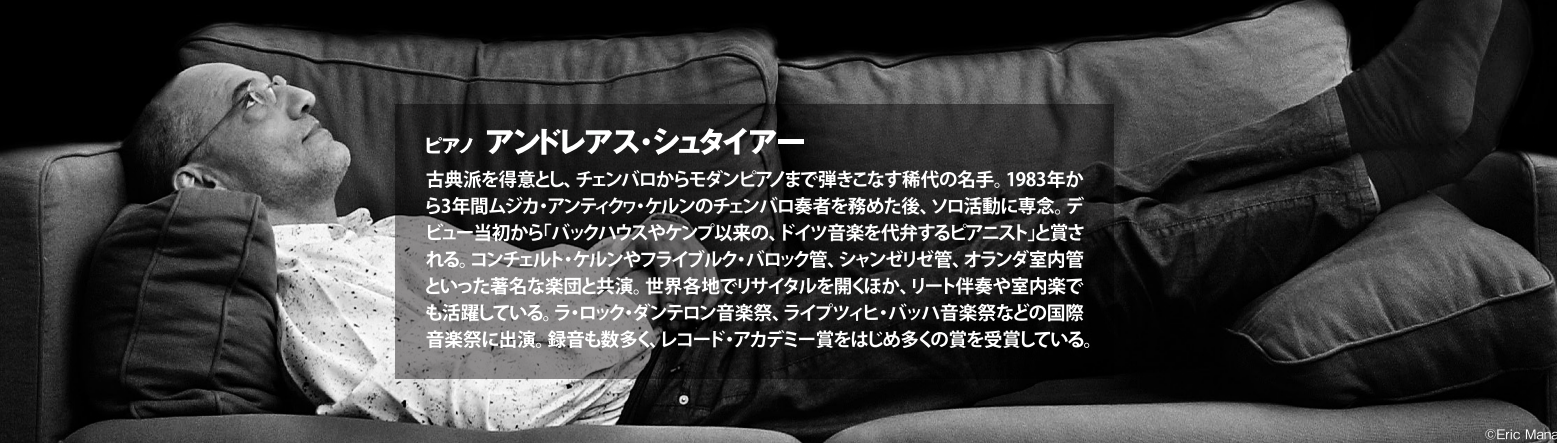
若き俊才と練達の士が描き上げる、二つの美。

鈴木淳史(音楽評論家)

移ろいゆくものの美しさ——モーツァルトの音楽における変化は、繊細ながらも大胆な効果をもたらす。流れの良さを微塵も損なわず、心象風景を一変させてしまう。アンドレアス・シュタイアーが弾くモーツァルトは、そんな作品の持つ変化に卓抜したセンスを煌めかせる。チェンバロやフォルテピアノなど様々な鍵盤楽器を自在に弾きこなし、今やドイツを代表するピアニストと目されるシュタイアー。1996年にレストロ・アルモニコ東京、2006年にレ・ポレアドと共演、モーツァルトの協奏曲を弾いて、作品から多彩なエッセンスを引き出したことが思い出される。注目すべきは、今回は珍しくモダン・オーケストラとの共演であり、使用する楽器もフォルテピアノではなく、モダンピアノという貴重な機会になったことだ。フォルテピアノ特有のダンパー・ペダルを使った音色変化が見事だったシュタイアーだが、モダンピアノではどのようなモーツァルトを聴かせてくれるのだろうか。とくに、変奏曲風に展開していく第17番の第2楽章は要注目だ。

シヨスタコヴィチの音楽の移ろわせ方は、さらにダイナミックだ。とくに、この交響曲第7番は、戦いをテーマとしたアグレッシヴな側面と内面的なモノローグが入り乱れ、最後の凱歌に向かって一進一退を繰り返す作品。まさしく、巨大な壁面だ。ノルウェー生まれの指揮者エイヴァン・グルベルグ・イェンセンは、そんなシヨスタコヴィチの音楽の果敢な表情変化に敏感に反応してくれるのではないかと。テンポやアーティキュレーションを小気味よく切り替える芸風は、インターネットにアップされたラフマニノフやシベリウスの交響曲でもよくわかる。木管の響きをうまく使ったオーケストラ・バランスもユニークだ。長らくハノーファーの北ドイツ放送フィルで活躍、オペラにも意欲的で、2017年にはウィーン国立歌劇場にデビューする俊英指揮者が、読響相手にいかなる音楽を披露してくれるのか、その日を心待ちにしている。

ANDREAS STAIER



ピアノ アンドレアス・シュタイアー

古典派を得意とし、チェンバロからモダンピアノまで弾きこなし稀代の名手。1983年から3年間ムジカ・アンティクワ・ケルンのチェンバロ奏者を務めた後、ソロ活動に専念。デビュー当初から「バックハウスやケンプ以来の、ドイツ音楽を代弁するピアニスト」と賞される。コンチェルト・ケルンやフライブルク・バロック管、シャンゼリゼ管、オランダ室内管といった著名な楽団と共演。世界各地でリサイタルを開くほか、リート伴奏や室内楽でも活躍している。ラ・ロック・ダンテロン音楽祭、ライブツィヒ・バッハ音楽祭などの国際音楽祭に出演。録音も数多く、レコード・アカデミー賞をはじめ多くの賞を受賞している。

©Eric Manas

読響日本交響楽団 第548回 定期演奏会

2015年 **5月13日**(水) 19時開演

サントリーホール

S ¥7,200 / A ¥6,100 / B ¥5,100 / C ¥3,600

東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

■学生券: 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。

■団体割引: 読響チケットセンターにて同一公演の10回券を10枚以上まとめてお求めになった方に団体割引をいたします。

■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。あらかじめご了承ください。■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

*10時-18時・年中無休

読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

*座席選択してチケットをご購入いただけます(一部、携帯電話、スマートフォンなどを除く)。

*郵送でチケットを受け取る場合、送料は無料です。

プレイガイド: チケットぴあ 0570-02-9999、サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017